

宇佐市民図書館 2002.10

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
<http://www.usa-public-library.jp/>

◆今月の表紙・横光利一の原稿「川端康成氏の『雪国』は…」
 ◆無題(全文)／横光利一
 ◆龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(5)
 ◆新着郷土資料目録・平成十四(二〇〇二)年【9月】

川端康成氏の「雪国」は、「鳥が飛ぶのを見
 てみると、鳥に似てゐる。」と云ふ道元の言
 葉を、そのまま生かして見せた傑作であ
 る。瀧井孝作氏の「積雪」は、「鳥が飛んだ
 か、あはれ鳥だ。」と云ひ切つてゐる傑作
 である。阿部知二氏の「冬」は、「鳥は
 飛んだか、追つたか、掴まるか。」と首
 をひねつた傑作だ。石坂洋次郎氏の「若
 い人」は、「鳥は飛んだが、どうも食方が良
 ささうだ。」と思つてゐる傑作だ。林房
 雄氏の「壮年」は、「鳥が飛ぶなら、皆追つ
 かけろ。」と思つてゐる傑作だ。志賀直哉
 氏の「暗夜」は、「鳥が飛んだがまた降りて
 来た。」と云つて走り出した傑作だ。飛んだ鳥
 がまた降りて来た。私は一つこの鳥を、叩
 き殺すか、剥製にしてみたいと思ふ。

今月の表紙 執筆年月 など不明。1枚。ペン書。未発表。横光家旧蔵資料。宇佐市所蔵(三和文庫)。
 内容は『定本横光利一全集』第16巻(河出書房新社)の「雑纂＝評論・随筆」に収録されている。

4 2 1 1

無題 (全文)

横光利一

川端康成氏の「雪国」は、「鳥が飛ぶのを見て
 ると、鳥に似てゐる。」と云ふ道元の言葉を、
 そのまま生かして見せた傑作である。瀧井孝作
 氏の「積雪」は「鳥が飛んだが、あれは鳥だ。」と
 云ひ切つてゐる傑作である。阿部知二氏の「冬
 の宿」は、「鳥は飛んだが追つかけても掴まるか
 な。」と首をひねつた傑作だ。石坂洋次郎氏の
 「若い人」は、「鳥は飛んだが、どうも食方が良
 ささうだ。」と思つてゐる傑作だ。林房雄氏の
 「壮年」は、「鳥が飛ぶなら、皆追っかけろ。」と
 云つて走り出した傑作だ。志賀直哉氏の「暗夜
 行路」は、「飛んだ鳥がまた降りて来た。」と云つ
 て羽を撫手てゐる傑作である。私は一つこの鳥
 を、叩き殺すか、剥製にしてみたいと思ふ。

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編(5)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に連載しました。

あし

あしかが・さんきゆう

足利三休

天正七年、古河公方、足利入道三休。豊府に来て後ち臼杵に居る。宗麟は為に館を大分郡高城山に営んで与えた。此他幽遠で大(に)喜んだ云々。

(紀聞・豊後国誌)

あしかが・たかうじ 足利尊氏

(二三〇五～一三五八)

豊国遺事に曰く、延元元年、足利尊氏の船、富来に至る。富来忠茂出迎え、之を城に入る。尊氏大に悦ぶ。忠茂、尊氏に従い各地に戦い、軍功あり。尊氏、旗一旅を与う。今尚富来の満弘寺にあり云々。(吉田東

伍大地名典)

満弘寺記曰く、延元元年、尊氏九州の兵を卒い、京に上らんとす。富来浦に艦す。此寺を以て次営となす。尊氏の落齒及軍旗今尚之を蔵す。

あしかが・なおかげ 足利直景

足利尊氏の孫。直冬の子。貞和五年、父直冬が高師直に讒せられ、石州に避難し、応永七年歿した。直景来つて直入郡垣田村に居り、名を季景と改めた。大友親著共寓居の陋を聞き、命じて改営し、荘田を其子の秀朝に寄せたので大友氏に仕えた。

(垣田家譜)

あじむ・きんまさ 安心院公正

宇佐大官司で正安中、宇佐公泰

というが、龍王山に築き、神樂獄城と称し、安心院氏と称し、安心院溪十六ヶ村の地頭を兼ねていた。其公泰の孫に中務大輔公正というがある。天文中、大官司兼安心院の地頭であった。当時、宇佐郡は大内氏の支配にあつたので、大内氏が龍王城に守兵を置いていたが、弘治二年、大友宗麟が大内勢を駆逐して龍王城を奪い返したので安心院公正等皆大友に降った。公正も宗麟の一字を貰い、入道して麟生(正)と称した。そして天正七年以来、大友氏の為め忠勤を尽したが、又して天正十年頃から大友に反するものが多くなったので麟生も大友に叛いた。すると妙見城から田原紹忍が安心院を攻めて来た。麟生の子千代松丸之を櫛野越えて防戦したが、新開統広が背後から攻めて来たので千代松丸も敗れ、麟生が龍王城で防戦したが敗

れ、天正十一年正月二十日、麟生以下皆自刃して果てたが、千代松丸の遺子宇佐武官となり祀りは存している。

(宇佐史論)

公泰六代の孫。中務大輔と称し、

天文中、宇佐大官司に任じ、地頭職を兼ねていた。大内義隆、城井三郎を龍王城に駐屯させた。公正之が麾下に属していた。弘化二年、大友義鎮、龍王城に入るや、公正亦三十六士と大友氏に降り、入道して麟生と称した。天正七年、田原紹忍の軍に属し戦功がある。天正十年、部内に叛大友熱高潮して来たので、麟正亦大友に叛いた。すると其十月十二日、妙見城探題田原親盛(紹忍養子。宗麟次男)が攻めて来て、九人峠で防戦したが破られ、龍王城支えず、敗退。麟生追兵に迫られ、萱籠村で自刃した。其子千代松の夫人は田原紹忍の女であったが、千代松丸

夫婦の墓は安心院にある。夫人の墓は今も姫の墓と称している。

(宇佐史談)

あじむ・きんやす 安心院公泰

宇佐津彦四十三世の裔。正安中、宇佐大官司に任じ、安心院に住し、龍王山上に神樂岳城を城き、安心院氏と称し、安心院村、津房村十六部落の地頭職であった。

あそう・かんぱち 麻生観八

(一八六五～一九二八)

日田の草野家に生れ、玖珠郡東飯田麻生家を嗣ぐ。年二十四酒釀を始め、十年の後、千石造り県唯一の酒造家となり、名酒八鹿の名高く家運を挽回し、或は富士紡績、九水電気会社の重役となり、一面政界の一立物として党人に推重され、一時

立秋

我まてる心にかねて催し、

初秋風ぞ今朝たちける

公則

あそう・きんみち 麻生公道

(一八二九～一八五五)

字遠脚。復軒又速水と号す。速見郡八坂村本庄真保長男。文政二年生。其先は宇佐姓宇佐郡麻生郷の人。代々麻生撰津守と称す。弘治中、八坂村本庄に来住するものあり。本庄氏を称す。公道、帆門に学び、都講となり、詩歌は因より武芸に長じていた。又孝義を以て藩公に表旋せられた。外艦渡来の事あるや国防の議を上下し、刃防論等数千言を著わし、萬里先生に京師に従い、大に為す所あらんとしたが老母の故を以て還郷し、安政二年、三十七歳溘然長逝した。

(公道遺芳)

バックナンバーは、
カウンター(そうだん)で
さしあげます。

新着郷土資料目録 平成14(2002)年【9月】

書名/人名/出版社/出版年(月)/請求記号/(備考)

ししよほのたまごたち ~その40日の軌跡~

／其編集委員会／別府大学・別府大学短期大学司書補講習／2002.3/A010へ／(寄贈)

竹田市立図書館 郷土資料目録/竹田市立図書館/2002.8/A020タ／(寄贈)

宇佐神宮の原像/三木彊/創史社/1980/A175ミ／(保管転換・複本)

大分縣史料3 第1部/大分縣史料刊行会/大分縣教育研究所/1952/A200.8オ／(寄贈・複本)

大分縣風土記/旺文社/1988/A201オ／(保管転換・複本)

邪馬台国(朝日文庫)/朝日新聞学芸部/朝日新聞社出版局/1990/A2037／(保管転換)

奥平家中勤方覚書 中津藩政史料/中津藩政史料研究会/中津市立小幡記念図書館

／2002.8/A211ナ／(寄贈)

柳ヶ浦町史付録/中野幡能/柳ヶ浦町史刊行会/1970/A215ナ／(保管転換・複本)

台湾を愛した日本人/古川勝三/青葉図書/1989.8/A289ハ／(寄贈)

ふるさと日本列島 第8巻 九州・沖縄/毎日新聞社/1987/A290.3マ／(保管転換)

福澤諭吉書簡集 第7巻/岩波書店/2002/A3097／(購入)

福澤諭吉著作集 第3巻/慶応大学出版会/2002/A3097／(購入)

平成14年9月 第四回宇佐市議会定例会会議録/宇佐市議会/2002.9/A314.5 ウ／(寄贈)

県政のあゆみ 昭和42年版/大分縣秘書公聴課/1967/A317.2オ／(保管転換)

創立70周年記念誌/宇佐:大分縣立長洲高等学校/1989/A372.4ナ／(寄贈・複本)

大分の青年団運動/大分縣青年団運動史編纂委員会/大分縣連合青年団

／1997/A379.2オ／(寄贈・複本)

大分縣自然環境保全地域候補地調査報告書(県北地区)1979

／大分縣環境保健部/1979/A400オ／(保管転換)

建築士大分 No. 85/大分縣建築士会/2002.9/A520オ／(寄贈)

国東半島 日本の美/石本泰博/集英社/1978/A700イ／(保管転換)

いちものがたり【手作り絵本】/宇佐:西馬城小学校研修部/1996/A726.1イ／(寄贈)